

Humanitude (ユマニチュード) とは

フランスの体育学者イヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティが考案したケアメソッドで、哲学と技術を持っています。心地よさ、安心をケアの重要な要素とし、相手が受け取りやすい形で届けることによって人が持っている強みにアプローチすることで回復を目指します。それを実現するための技術の柱が「見る」「話す」「触れる」「立つ」です。



【ユマニチュードの哲学とは】

ケアをする人とは、ケアを必要としている人の「健康な部分」をケアすることで回復、維持、寄り添いの役割を果たす人のことを言います。これを哲学として、常に、そのケアは、回復を目指すケアになっているか？を問います。

【こんな時、どんなケアを選ぶ？】

Aさんは、認知症はあるものの一人暮らしをしていました。そんなある日、肺炎を起こして入院し治療をうけています。しかし、ケアをしようとすると大声を出したり、拒否をします。口腔ケアや清拭を懸命に行っていますが・・・



肺炎が悪くならないように懸命にケアを行っていますが、そのケアはAさんにどのように届いているのか。Aさんの持っている力の回復のためのケア？維持？寄り添い？

どれも当てはまっていないかもしれない・・・

ユマニチュードの哲学と技術で
ケア再考する

心地よさ、安心をケアの重要な要素とし、**相手が受け取りやすい形**で届けることで、その人がもっている人としての力にアプローチする

技術①見る ②話す ③触れる ④立つ



不快や恐怖は、人が持っている力を低下させます。

最も、人の力を奪うものは「**強制ケア**」です
強制ケアは、ケアの対象を「意思疎通がとれない」と判断すると起こるリスクが高くなります。
届く形のコミュニケーションを探すことは、強制ケアを回避することにもつながります。

今日、患者とともにある時間の中でどんなメッセージを届けましたか？皆さんの安心を届けるケア技術は、患者の回復にとって重要な薬になります。ユマニチュードケア課は、一緒に、ケアを立ち止まって考えます！